



宮司プレス 第百七十四号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和三年七月二十九日

◇宮司の柴田です。 炎熱(えんねつ) 焼く

が如(ごと) き酷暑(こくしよ) の毎日であり

ります。 さて、「土用(どよう)」は、節分

や彼岸と同じ雑節(ざっせつ)の一つですが、

立春、立夏、立秋、立冬の直前の十七日から

十九日間のことです。 一般的には、土用と

いえば、夏の土用をさすようになりました。

夏の土用には、古くから梅雨明け後に生活用

品を虫干しし、厳しい暑さのため、食べ物に

気を使つて養生(ようじよう) するなどの習

わしがありました。 「土用丑(うし)の日」

には、「ウ」の付く食べ物を食べるといいとい

う言い伝えがございます。 昨日の七月二十

八日が、「土用丑の日」でした。 ビタミンが
豊富で精が付く鰻(うなぎ)や、夏が旬のウ
リ(スイカ、キュウリ、カボチャ、トウガン
など)、つるつると食べやすいうどん、食欲を
増進する梅干しなどを食べたそうです。 ち
なみに、昨日の我が家の食卓は、「キュウリと
わかめの酢の物」、六連島八幡宮の夏越祭の
お下がりの「カボチャの煮つけ」、「鰻」であ
りました。 鰻を食べる習慣は、讃岐(さぬ
き)の国出身の江戸時代の学者である平賀源
内が広めたとされますが、諸説あるようです。
その説が本当であれば、讃岐の出身である平
賀が、「うどん」ではなく「うなぎ」を広めた
ことが、意外でもありますし、妙(みよう)、
不思議でもあります。

◇さて、本号で第百七十四号となる宮司プレ
スですが、月二回の発行という快挙を三ヶ月
連続で継続しています。 実は、毎月二回の
発行を来年三月まで継続しますと、遅れの累
積がなくなり、いわゆるリセットされること
になります。 今、まさに、宮司プレスの「キ
ャッチ アップ(追いつくこと)」の「ミッシ
ョン」実行中というわけであります。

◇さて、今年(今年)は終戦七十六年を迎えようとし
ています。 その戦後七十六年の最初の十年
は、「キャッチ アップ」の期間だったそうで
す。 実は、先の戦争で破壊(はかい)され
たのは、工場や鉄道、住宅などのハードウエ
アといわれています。 読み書きそろばん能
力や、規律性(きりつせい)や勤勉(きんべ
ん)さなどのソフトウエアは、破壊されなか
ったのです。 宮司プレスの前号にも記述
(きじゆつ) しましたが、「敬神」という日本
人の道徳を失わず、「生活の古典」ともいうべ
き年中伝統行事を大切に、日本人の特性、さ
らに、日本人らしさが失われなかったのです。
そのことが、良質な労働力につながり、いち
はやく経済が回復し、「キャッチ アップ」を
成し遂(と)げ、奇跡(きせき)ともいうべ
き戦後の復興の原動力(げんどうりよく)と
なったのです。 宮司プレスも、かなり、大
袈裟(おおげさ)ではありませんが、日本の戦
後の奇跡的な復興にあやかり、「キャッチ
アップ」したいものです。

◇作家で経済評論家であった堺屋太一さん
は、「三番目の日本」を作ろうと提唱(ていし
よう)されてきました。 一番目は、明治時
代の目指した「強い日本」、二番目は、戦後の
「豊かな日本」、三番目の日本は、「楽しい日
本」だと提唱されたのです。 コロナ禍にな
って一年と六か月、「楽しい日本」とはかけ離
れた日々であります。 しかしながら、私共
の御先祖様は、自然や時代の変化の中に身を
置きながら、自然を畏(おそ)れ敬(うやま
い)、その状況(じようきよう)に順応(じゆ
んのう)して、幾多(いくた)の困難(こん
なん)を乗り越えてこられました。 雨降る
も良し、晴れるも良しという、とらわれない

心持(こころもち)で生活することを、「雨奇晴好(うきせいこう)」といいます。詩人の相田みつをさんも、「雨の日には雨の中を風の日には風の中を」という詩を残されています。雨の日には雨をききつつ、風の日には風を聞きつつ、喜んで生きる、まさしく、この

「雨奇晴好」という心意気があればこそ、苦難を乗り越えられたのではないのでしょうか。「苦難」は、まさしく、「幸福の門」でもあります。堺屋太一さんの提唱された、「楽しい日本」になる心がけ、心意気なのではないのでしょうか。これから、コロナ禍になる前の

「ビフォーコロナ」に、「キャッチ アップ」を果(は)たし、コロナ禍が終息(しゆうそく)した、アフターコロナが、「楽しい地域社会、楽しい日本」となるためにも、一つ一つの祭典に真心を込めて御奉仕申し上げたいと思います。皆様も、「雨奇晴好」の心意気で、「楽しい日々」をお過ごしください。御自愛を祈ります。

◇七月の祭典行事予定(報告も含む)

▼月次祭 *七月一日、十五日

※五年ぶりに狩衣(かりぎぬ)を新調しました

▼貴布祢神社、貴布祢稻荷神社月次祭

*七月一日

▼七社祭 *七月九日

▼竹の子島天満宮例祭 *七月十五日

▼朝粥会 *七月二十一日

▼夏越祭

■六連島八幡宮 *七月二十五日

※六連島の各戸を二軒一軒お祓いして廻る「戸別祓(こべつはらい)」も行いました

■田の首八幡宮 *七月二十七日

■彦島八幡宮

※前夜祭 *七月二十九日

※御神幸祭 *七月三十日

■恵美須神社 *七月三十一日

▼五年ぶりに狩衣を新調しました



▼花手水を行いました

■夏詣七夕花手水 *七月七日まで

■夏越花手水 第一弾

*七月二十二日～二十五日



■夏越花手水 第二弾*七月二十六日～三十日

※六連島より奉納頂いた花を浮かべました



◇七月の宮司動静予定(報告も含む)

▼彦島八幡宮関係団体

□敬神婦人会境内清掃奉仕作業

*七月二十五日

□奉賛会茅の輪奉製奉仕作業

*七月二十七日

▼山口県神社庁、同下関支部

□山口県神社総代会役員会

□山口県神社庁役員会 *七月八日

□山口県神社庁支部長事務局局長会議

*七月九日

□山口県神社庁教化部代表者会議

*七月九日

□下関神社総代会役員会

*七月二十一日

▼教誨活動 ※美祢社会復帰促進センター

□集合教誨(男子) *七月十二日

□集合教誨(女子) *七月二十六日

▼その他

□迫町自治会役員会 *七月二十一日